

『ゼロからはじめる音響学』第1～12刷正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
標記書籍に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

【第1刷】

ページ数	行数	誤	正
93	図 6.11 (a)	VOT がプラスの無声破裂音	VOT がプラスの破裂音
93	図 6.11 (b)	VOT が0の無声破裂音	VOT が0の破裂音
93	図 6.11 (c)	VOT がマイナスの有声破裂音	VOT がマイナスの破裂音
93	1 行目	VOT は一般に0またはプラスの値になります。一方、有声破裂音は、破裂に先立ち声帯が振動を始めるため、VOT は一般にマイナスの値になります。	VOT は一般にプラスの値になります。一方、有声破裂音は、それより早く声帯が振動を始めるため、VOT は無声破裂音よりも小さい値になります。
95	下から2行目	W の音声記号に [w] があてられているため、	W の音の音声記号に [w] があてられているため、
138	図 8.11		
157	6 行目	このように、刺激量が小さいときは解像度を細かくし、刺激量大きいときは解像度を粗くすると、大小さまざまな刺激量をカバーしつつ、センサーのサイズを相対的に小さくすることができます。	このように、刺激量が小さいときは解像度を細かくし、刺激量大きいときは解像度を粗くすると、ひとつのセンサーで大小さまざまな刺激量をカバーすることができます。

【第1～12刷】

ページ数	行数	誤	正
72	2行目	成人女性は <u>15 m</u> 。	成人女性は <u>15 cm</u> 。
85	8～10行目	日本語の場合、音節はモーラとほとんど同じものと考えてよいでしょう。ただし、N、Q、Rといった特殊なモーラは、直前のモーラと一緒にまとめられて、ひとつの音節を構成します。	日本語の場合、音節はモーラとほとんど同じですが、 <u>まったく同じというわけではありません</u> 。N、Q、Rといった特殊なモーラは、直前のモーラと一緒にまとめられて、ひとつの音節を構成することに注意してください。
86	4～5行目	たとえば、「ホンモウ（本望）」と発音する場合は「ン」で <u>口</u> を閉じますが、「ホンノウ（本能）」と発音する場合は「ン」で <u>唇</u> を閉じません。	たとえば、「ホンモウ（本望）」と発音する場合は「ン」で <u>唇</u> を閉じますが、「ホンノウ（本能）」と発音する場合は「ン」で <u>唇</u> を閉じません。
90	最終行	これは、[i]の発音の準備のため、先行する子音の調音点が硬口蓋に向かってずれることが音の違いとなって現れることを意味しています。	これは、[i]の発音の準備のため、先行する子音の調音点が硬口蓋に向かってずれることが音の違いとなって現れることを意味しています。 <u>この現象を硬口蓋化または口蓋化と呼びます</u> 。
99	1-6行目	後続の音によって発音が左右されるのが撥音「ン」の特徴です。たとえば、 <u>口</u> を閉じて発音する[p]や[b]といった音が後続する場合は、「ン」も <u>口</u> を閉じて発音されることになります。このとき、「ン」は[m]の音になります。一方、 <u>口</u> を閉じないで発音する[t]や[d]といった音が後続する場合は、「ン」も <u>口</u> を閉じないで発音されることになります。このとき、「ン」は[n]の音になります。	後続の音によって発音が左右されるのが撥音「ン」の特徴です。たとえば、 <u>唇</u> を閉じて発音する[p]や[b]といった音が後続する場合は、「ン」も <u>唇</u> を閉じて発音されることになります。このとき、「ン」は[m]の音になります。一方、 <u>唇</u> を閉じないで発音する[t]や[d]といった音が後続する場合は、「ン」も <u>唇</u> を閉じないで発音されることになります。このとき、「ン」は[n]の音になります。
123	5-7行目	図 7.16 に示すように、こうした感度の補正には、通常、A 特性と C 特性のどちらかが利用されます。A 特性は、	図 7.16 に示すように、こうした感度の補正には、通常、A 特性と C 特性のどちらかが利用されます。 <u>なお、補正を一切行わない場合は Z 特性になります</u> 。A 特性は、
123	図 7.16		
164	図 10.7 のタイトル	<u>継時</u> マスキング効果	<u>経時</u> マスキング効果